

One Purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY



199

2019 November



特集

障がい学生支援制度
20周年を迎えるにあたって
ーダイバーシティキャンパスを視野に入れてー

同志社人訪問

東京都副知事

宮坂 学さんに聞く

COVER INTERVIEW
My Purpose 挑戦する人

My Purpose 挑戦する人
を動画でCHECK!



2

特集

障がい学生支援制度 20周年を迎えるにあたって

ーダイバーシティキャンパスを視野に入れてー



7

Seminar ～ゼミ探訪 学びの時間～

経済学部 新聞 三希代ゼミ

生命医科学部 医生命システム学科 システム生命科学研究室 三田 雄一郎

9

同志社の研究は今

超音波応用科学研究センター

センター長 松川 真美 (理工学部教授)



11 来年度就職を目指す皆さんへ

13 同志社校友会

15 INFORMATION

クリスマス・イルミネーション点灯式／第144回同志社EVE／課外活動総合WEBサイト「D-Live」／2020年4月からスタートする「高等教育の修学支援新制度」の在学生(学部生)を対象とした申請受付を行います／卒業式・入学式／本学教員の執筆図書紹介

18 INTERVIEW ～同志社人訪問～

東京都副知事

宮坂 学さんに聞く



21 My Job, My Life ～私と「仕事」～

橋本 将都さん (2017年 スポーツ健康科学部卒業)

森 直美さん (2010年 政策学部卒業)

23 COVER INTERVIEW My Purpose ～挑戦する人～

田中 希実さん (スポーツ健康科学部 2年次生)



お知らせ

「One Purpose」は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。2018年度より4月・7月・11月の年3回の発行となりました。同志社大学の最新情報は随時ホームページでお知らせしております。ぜひご覧ください。▶ <https://www.doshisha.ac.jp/>

障がい学生支援制度 20周年を迎えるにあたって

—— ダイバーシティキャンパスを視野に入れて ——



2000年に同志社大学は障がい学生支援制度をスタートさせました。学生が互いに支え合う日々の中で得た貴重な学びによって自律的な成長を図り、その成果をコミュニティに還元する。これが支援制度の中核をなす目的です。また、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)、日本学生支援機構 (JASSO) との連携も推し進めてきました。2016年には障害者差別解消法も施行され、大学における障がい学生支援は新たな局面を迎えています。来年迎える障がい学生支援制度発足20周年を前にこれまでの取り組みをふり振り返り、これからの支援のあり方をダイバーシティキャンパスを視野に入れながら語り合いました。



阪田 真己子

障がい学生支援室長
文化情報学部教授

伊東 恵司

理工学部・理工学研究科事務長
ハリス理化学研究所事務長

土橋 恵美子

障がい学生支援室チーフコーディネーター
全学共通教養教育センター嘱託講師

受け継がれてきた支援の心を 制度として結実させた

阪田 私は1年半ほど室長を務めていますが、「支援室を立ち上げられた時のご苦労」や「その後の19年間にどのようなことがあったのか」などを具体的にお聞きする機会がなく、一度、皆様に時間を割いていただき、お尋ねしたいと思っていた矢先に、このような座談会企画が実現し、本当に嬉しく思っています。同志社大学は、2000年に障がい学生支援制度をスタートさせ、様々な支援を行ってききました。日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) や日本学生支援機構 (JASSO) といった学外の組織と連携する形で支援制度を推し進めてきたという背景もあります。また、2016年に障害者差別解消法が施行されることによって新たな道へ大きく踏み出すことになりました。来年、障がい学生支援制度発足20周年を迎えるにあたって、これからの本学の障がい学生支援がどうあるべきか、といったことについても意見交換ができればと思っています。それでは早速ですが、事務担当者として制度発足に携わられた伊東恵司さん、制度立ち上げの経緯や当時をふり振り返りながら準備期のご苦労などをお聞かせいただけますでしょうか。



伊東 障がい学生支援制度の話が学生部の中で出た時、私は学生課の係長でしたので当時のことを少しお話ししたいと思います。はじめに少し個人的なことではありますが、かつて同志社大学の栄光館

にヘレン・ケラーさんが来られた時に、手話通訳を務めたのは私の父である伊東雋祐でした。当時のことは父から詳しく聞いており、同志社大学は障がいのある人々に深い思いを持った大学であるということをお話していました。例えば、点訳・墨訳を最初に行ったのも本学だと思います。視覚障がい者に対する授業保障のようなことを制度の有無とは関係なく行っていたのです。私が学生部に配属になった頃、学生部は大学生の厚生補導から支援へという「コペルニクスの転換期」を迎えていました。車椅子介護やノートテイクなどのサポートがボランティアとして行われていました。教務部では試験をしっかりと受けさせるために点訳・墨訳を実施し、学生部では日々の授業を支援するためにボランティア活動をしている。これを一体化するために、障がい学生支援制度発足へ邁進したのです。仕組みを確立するためには、そこに注力できるコーディネーターが必要だということで、本日いらっしゃる土橋さんと呼んできました。これですべて上手く回るようになり、私の実質的な役目は終わったわけです(笑)。つまり、支援制度はある日突然はじまったのではなく、同志社大学の土壌に脈々と受け継がれて来たものがあり、その芽生えを形として整えたのがこの支援制度なのです。

阪田 私は室長として全国で開催される様々な会議に出席してきましたが、どこに行っても「あっ、同志社大学さんですね。土橋さんよろしくお伝えください」と言われるわけです。本学の支援制度を推進する上で、土橋さんがキーパーソンであり、本学を拠点として日本各地の障がい学生支援をボトムアップするのに尽力されてきたのだらうと大変強く感じています。伊東さんが「呼んできた」とおっしゃったのですが、その経緯や黎明期の現場の様子、当時のご苦労などをお聞かせいただけますか。

土橋 黎明期の頃のことは非常に鮮明に憶えています。伊東雋祐先生は日本の手話通訳者の草分けとして活躍され、手話通訳運動や聾教育を牽引してこられた方で、ご子息の伊東恵司さんともご縁がありました。支援制度が発足した翌年の12月に伊東さんから依頼を受けたのですが、当時1歳と2歳の2人の子どもがおり、お受けできるような状況ではなかったのですが、なぜかものすごい自信を持って「大丈夫だから!」と強く説得されました。最終的に引き受けしたのは伊東雋祐先生の関係と、先生から脈々と繋がる、聾学生や聾文化、視聴覚障がいのある方々への理解がきわめて深かった大学であること。もう一つは「(耳がきこえないので)情報を保障してください!私は、ただ他の学生と同じように勉強をしたいだけなのです」という学生からの要望です。それは非常に大事なことです。私も地域では聴覚障がいの人たちとともに権利保障を主張していましたが、そうした運動とは切り分け、教育という観点から関わりました。

阪田 当時、特に苦労されたこととか、印象深い出来事はありましたか。

土橋 私が本当に恵まれていたのは、伊東さんをはじめ当時の学生部の方々に障がい学生への理解があったという点です。コーディネーターの立場で思いを通しながらも、できないことは断ることができました。

伊東 当時、制度として大学の授業を保障するとか、学生をサポートするといった経験が他の大学も含めてなかったのか、どこまでやれば良いのか、どこまでできるのか、といったことが分からない。様々な意見や学生側からの強い要望もありました。すべてを聞けば、なし崩しになる。土橋さんは学生部で正式に雇用された形で働いておられるが、学外にはボランティアの方々もいらっしゃる。同志社大学だけが突出すれば、足並みが乱れる。まだ、



日下部 隆則

障がい学生支援室チーフコーディネーター
全学共通教養教育センター嘱託講師

混沌とした状況が続いており、考え方の混乱が全体的にあったのです。

土橋 もう一つは学内の仕組み。先の伊東さんのご発言にもあったように、点訳・墨訳は試験に直結した業務なので教務部で行っていました。障がい学生支援をどの部署で引き受けるのか、教務部か学生部かという討議を重ね、最終的に「学生部で受け持ちましょう」ということになったのです。障がい学生支援というのは、ハード面を整えるだけではできない。人による支援というのが不可欠です。学生の成長という観点から障がい学生支援制度を捉えた場合、支援される1人の学生だけではなく、その1人の学生をサポートする10人の学生にも焦点を当てるべきだという考え方が提示された時、私はストンと腑に落ちました。障がい学生支援の目的の一つに学生同士の支え合いがあり、そこから各自が互いに学び合うというのであれば、教務部ではないということになり、所管が教務部から学生部に一元化されました。

学生同士の支え合いを通じて 人間的な成長を目指す

阪田 今では日本の大学における障がい学生に対する合理的配慮というのは、学生支援部門が担うのが一般的になっていますが、かつては担当部署についての議論が繰り返されたわけですね。その意味では同志社大学が先導的にというか、先進的な形で「学生部が障がい学生支援を通じて学生の自律的成長を目指す」ということを決断したと理解して良いのでしょうか。

伊東 まったくその通りです。私が判断したのはそこだけです。当時、障がい学生はそれほど多くはなかった。しかし、増加すれば、それを支えるスタッフはどんどん膨れ上がって費用面で耐えられない。だから発想を変えるしかない。障がい学生支援の目的が「人間としての成長」



白澤 麻弓 氏

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク事務局長
筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター准教授

というのであれば、費用の捉え方も納得できるわけです。この発想の転換が本学の障がい学生支援制度を手厚い方向へ舵を切る分岐点になったと私や土橋さんは確信しています。

白澤 今、学生部を中心に障がい学生支援を推し進めた点で、同志社大学が貢献したというお話がありましたが、私としては、貴学が果たした役割はそれにとどまるものではないと思っています。中でも重要なのが「障がい学生支援は大学がやるものだ」という概念を打ち出した先導性です。当時、障がい学生支援は、当事者の自助努力によるのが当たり前の時代でした。そこに「大学による支援」という新たな考えが芽生え、具体化されはじめたのが2000年前後です。「私たちの大学は本気でやります!」と先進的な少数の大学が名乗りを上げはじめたのです。同志社大学は、その中で1~2を争う時期に「やります!」と表明された大学です。当時、土橋さんを雇用され、「入学式・卒業式では聴覚障がい学生の在籍の有無にかかわらず、必ず手話通訳者を配置します」と書かれた新聞記事を読んだ時、「大学の手による障がい学生支援がついにはじまる!」と感激しました。そういう意味で本当に幕開けの幕に自ら手をのばした最初の大学の一つでした。その後、私たちは2004年に日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワークを立ち上げ、翌年に当時の学生支援課長であった岩田さんと共にアメリカ視察に行きました。その時、岩田さんが「(障がい学生支援について)『予算がないからできない』『人がいないから難しい』という話をよく耳にするが、これは『やるか、やらないか』の世界。支援に一番必要なのはお金でも、人でもなく、『覚悟』だ」と語られていたのが衝撃的で「この言葉を全国に伝えていくのが私の仕事だ」と肝に銘じたことを今でも鮮明に憶えています。このように障がい学生支援を全国に芽生えさせたの



中村 周平 さん

総合政策科学研究科博士課程後期

が同志社大学で、それはものすごく大きな功績だと思っています。

阪田 海外の大学における障がい学生支援は、潤沢な予算を背景にプロの方々を雇用し、徹底した合理的配慮を実施しています。それは羨ましいことではありませんが、日本は他国とは異なる独自の路線で大学における障がい学生支援を推し進めてきました。伊東祐祐先生のご子息である伊東恵司さんをはじめとする、これはもう「神のお導き」と言わざるを得ないような人々の結集によって本学が他大学を先導するような形で「覚悟の大転換」を成し遂げ、障がい学生支援に積極的に取り組んできたことを大変誇りに思っています。また、「次代に向けて本学が果たさなければならない役目がある」ということを皆様のお話で実感し、身の引き締まる思いがします。では、続けて本学の障がい学生支援を語る上で欠かせない人物である日下部さんにお話を伺います。2018年秋に障がい学生支援室チーフコーディネーターとして正式にお迎えしたのですが、それ以前に学外の先生からも「阪田さん、富士ゼロックスにお勤めの日下部さんをご存じですか。あの方は今後の日本の障がい学生支援のキーパーソンになる人です」とお聞きしていました。日下部さん、障がい学生支援に関わるようになった経緯、障がい当事者の立場から見た本学の支援体制、着任後の実感など様々な視点からお話をお聞かせいただけますか。

日下部 私は本学のOBで、聴覚障がいの当事者です。1986年に法学部を卒業して富士ゼロックスに入社しました。学部時代は障がい学生支援制度というものはなく、実は私自身、障がい者という認識は希薄でした。友人に助けをもらいながら、法学部だったので様々な文献を読むことで卒業しました。しかし、社会に出てから「私は何を学んできたのか」という後悔のようなものが次第に大きくなって



いきました。入社後 10 年を経た頃に本学の大学院に総合政策科学研究科が新設されたのを知り、「会社での問題意識の解決」と「聞こえない自分として学び直したい」という理由で 1997 年に大学院に入学しました。学部時代は聴覚障がい自分からは開示できていませんでした。大学院では積極的に「聞こえないので助けてください」とお願いし、まだ支援制度は発足していなかった当時でも様々な支援をいただきました。大学院では素晴らしい仲間恵まれ、結果として博士後期課程まで行きました。2000 年に「このような支援制度があるので利用してみませんか」というご案内をいただき、利用させてもらいました。アナウンスがなければ、支援制度があることが分からない時代でした。実際の支援では、ハードルの高いドクターコースの討議にサポートスタッフを派遣してもらって、パソコン通訳してもらいました。「こんなに言葉を取ってもらえるのか!」と感激しました。一方、制度の理念にあるコミュニティへの還元という視点から考えると、私の会社にもインパクトを与えてくれました。白澤先生などが開催しておられる公開セミナーに人事の担当者連れて行ってパソコン通訳の仕組みを知ってもらい、富士ゼロックスの社内で実際に試してもらったのですが、その時にパソコン通訳してくれたのも同志社大学の学生さんでした。私の同僚も刺激を受けて「じゃあ、自分がやりましょ」となり、社内にパソコン通訳が広まって行きました。このように聴覚障がいの社員の支援の方法は同志社大学から学びました。大きな会議でも外部のパソコン通訳に来てもらえるようになるなど状況が一変しました。昨秋転職し、コーディネーターをしているのも色々な意味での恩返しという側面があります。私の職種、立場は様々でした。会社員、大学院生、非常勤講師、障がい学生のアドバイザー…。ここ 10 年は講師として授業を担当し、Challenged キャンプに参加させてもらうなど、制度との関係を深めてきました。その中で経験し、実感したのは同志社大学の学生と支援制度の素晴らしさです。「学生が学生を支える」という点を特に評

価しています。支え合う中で人として大切なものを学び、それを社会人になった時、人々に還元していく。この制度を利用した支える・支えてもらうという関係性は大学時代で完結するのではなく、社会に出てからも継続していくものということ。これを学生には理解してほしい。社会に出てからが本当の始まりだよ、と。例えば、先日、「支援する・支援される関係を考える」をテーマにした大学コンソーシアムの授業をやりました。三十数人の受講者の中で本学の学生は 5 人だけでした。受講後のアンケートには「人間としての価値観が覆った」、「障がい学生を敬遠していたけれど意識が変わった」といった感想が毎年続出します。本学には情報を与える鋭敏に感応してくれる学生が数多くいます。ですから、夏期の集中講義だけではなく、春・秋学期でも本学に「学ぶ機会」を設けて「知る機会」を広めていただきたいと願っています。

阪田 他大学に行った時、「同志社大学さんのおかげで本学の障がい学生支援があります」などと言われますが、本学の教員を 15 年もしているのに、本学がそのような立場にあることを知りませんでした。白澤先生の「同志社大学の覚悟」のエピソードも初耳です。日下部さんがおっしゃったように本学の学生に「学ぶ機会」「知る機会」を広く提供するのは私たち教員の使命だと痛感しています。今日は障がい学生支援制度を利用されている中村周平さんにも出席していただきました。在学生として現在の支援制度をどのように感じておられますか。

中村 私は高校 2 年生の時にラグビーの練習中の事故で首の骨を折り、胸から下が麻痺しており、24 時間サポートが必要な障がい学生です。2005 年に他大学に進学しましたが、当初は支援体制がなく学生の自主的なマンパワーに助けられていました。その後、学生大会で障がい学生支援が議題にあがり、2006 年の夏頃に障がい学生支援室が新設されました。修士課程修了後に一度就職しましたが、2014 年に日下部さんと同様に同志社大学大学院の総合政策科学研究科に入り直しました。サポートを受けるにあたり事前に面談があり、支援運用ルールという A4 サイズ 20 枚前後の案内書を提示されました。以前の大学と比べて、「ちょっと厳格な感じだなあ」というのが第一印象でした。でも、その後、私自身が何度かルール違反で職員や利用学生の方々に迷惑をかけてしまい、このルールブックの意味を理解しました。これまでトラブルが生じる度に、「こうした方が良い」とい

う詳細なルールが決められ、それが積み重なって、このように分厚いものになったのだと気づいたのです。今はルールを厳守することによって相互の信頼が深まり、安心して学生生活を送ることができることを実感しています。また、私は支援制度がない頃の状況も体験していますが、現在は「支援制度があつて当たり前」といった感覚がある。障がい学生の権利を保障するのは当然ですが、サポートしてくれる方々への感謝の気持ちを忘れてはいけないと思っています。

多様な学生の存在を前提にした大学の「再定義」が必要

阪田 2016 年に障害者差別解消法が施行され、ダイバーシティという概念も注視されています。今、私たちは新たな転換期を迎えています。これから本学が果たすべき役割を考え、解決すべき課題に取り組まなければなりません。白澤先生のご意見を聞かせただけですか。

白澤 アメリカの大学の先生に「日本で障害者差別解消法が施行されたので、これに関連した講演をお願いします」と依頼すると、「合理的配慮も大切ですが、現在、アメリカの大学が目指しているのは『学びのユニバーサルデザイン化』です。大学には多様な学生がいて、その中に障がい学生がいるのは当たり前です。なので、これを前提とした大学を創っていかなければならないのです」という言葉が返ってきます。まさにこの言葉が示すように、これからは、多様性を出発点とした「大学の再定義」が必要です。その発信源として一緒に走っていただけると嬉しいなと思います。

阪田 「大学の再定義」という言葉が大変心に響きました。本学の新たな使命を感じます。伊東さんは今後の本学の障がい学生支援のあり方についてどのようにお考えですか。

伊東 京都には数多くの大学があり、大学コンソーシアム京都もある。これらが相互に連携して京都の大学全体で障がい学生をサポートするネットワークを築ければ、新たな次元に到達できるのではと思っています。これは当時から考えていたことです。それから、白澤先生が提示された「大学の再定義」という言葉には非常に感銘を受けましたが、その再定義を行う前にもう一度検証しなければならないのが専門性です。一般教育的な科目についてはサポートができて、例えば理系の専門分野などは限られた人しか対応できない。そのあたりの仕組みも考えなければならないと思っています。もう

一つ、エストニアという国に無形文化遺産に登録されている合唱祭があります。約2万人が合唱し、15万人前後の人々が集う壮大な祭典です。そこで手話通訳が行われていたのです。音は聞こえないけれど、国民的行事に聴覚障がいのある方々も積極的に参加している。大学を超えて社会全体で支援を行っている。素晴らしいことであり、見習うべき姿勢だと思いました。

阪田 土橋さん、目下部さん。コーディネーターの役割、本学における障がい学生支援のあり方について思うところをお聞かせいただけますか。

土橋 支援制度が発足した当時のコーディネーターは、障がい学生の「代弁者の役割」を担っていました。現在は障害者差別解消法が施行され、「代弁者」から「仲介者的な立場」、つまり「繋げる」というコーディネーター本来の役割を受け持つようになってきました。それから試行錯誤を続けてきた学内の整備。結論から申し上げますと、安定したチームとして支援を行うためにはキャンパスコーディネーター、そして何よりも補佐をしてくださるアルバイトの方々が最も大切だと実感しています。また、ネットワークという観点から見ると関西圏が特出しています。情報交換だけにとどまらず、互いに助け合おうという気質が土壌にあると考えます。その中心として大学コンソーシアム京都があり、これを起点に「関西地区を良いチームにしていく」という役割を果たした

と思っています。

目下部 「制度としての成果をコミュニティに還元する」という理念を大切にしたい。支え合う支援のマインドを持った学生たちを同志社カレッジソングの歌詞にある「葡萄の枝のごとくつながりゆく」様に社会に送り出したいと思っています。それをお手伝いするのが、私たちコーディネーターの務めだと考えています。また本学の支援制度は、障がい学生やそのご家族に大きな希望を与えるものです。その心に寄り添えるように制度を伸展させたい。また、本学の制度は新島襄先生の「一人一人大切ナリ」という言葉との親和性が高い。こうした基軸があるものは心強い。そのことを胸に刻み、学生と共に歩み続けたいと思っています。



阪田 当事者が中心となって本学の支援体制を改革していくというのは非常に重要な点だと思います。中村さんがこれからの障がい学生支援に望むことは何ですか。

中村 サポートをしてくださる学生さんと

は日々のコミュニケーションを通じて互いに理解を深めるようにしています。また、支援に関わっていない学生さんの場合、例えば「エレベーターが満員で授業に間に合わない」、「多目的トイレを使用している」など知らず知らずのうちに障がい学生に対するバリアを生み出しているケースもあります。同じ大学の学生という繋がりの中で、私自身も様々な機会を捉え、積極的に発信し、共に考えることによって「学びの支援」に貢献し、これから入学する方々のためにも、新たな可能性をもたらすことができればと思っています。

白澤 伊東さんからご提言がありました。が、「教育の質の保障」という観点から「支援の専門性をどのように高めていくのか」という点も大きな課題です。支援を経験した卒業生に専門性を活かして、寄与してもらおう仕組みを考えることも重要だと思います。

阪田 新島八重の兄であり、明治維新後は京都府顧問として勸業政策を推進し、新島襄の志に共感して同志社英学校設立に貢献した山本覚馬も障がい者でした。蛤御門の変で失明し、歩行も困難となりました。新島襄の同志が障がい者であったことを思うと、改めて同志社は開校時からダイバーシティキャンパスへの道を歩みはじめていたことを実感します。本日は皆様の貴重なご発言、ご提案に感銘を受け、決意を新たにしました。これからもご協力、ご支援を賜りたいと思います。どうもありがとうございました。

障がい学生支援室イベント

ランチタイム手話



障がい学生支援室では、開講期間中に昼食をとりながら楽しく手話を学べる場を両校地で設けています。

京田辺校地 成心館2階 学生面談室3
第2・第4火曜日のランチタイム

今出川校地 寒梅館1階 障がい学生支援ラウンジ
第2・第4木曜日のランチタイム

懇談会



障がい学生支援制度の利用学生とサポートスタッフを対象として、支援活動における個々のケースについての意見交換を通じて制度の充実を図ると同時に、障がい学生と支援スタッフ等の交流を深めることを目的に、各学期の中間と期末にそれぞれ懇談会を開催しています。

Challengedキャンプ



障がい学生と一般学生が寝食をともにしながら、「音がない・光がない・身体がきかない」という世界を実際に体験し、いつもの見慣れた風景をみつめなおすことを通じて、日常生活では気づかないことに気づくための2泊3日のキャンプです。お互いの交流をはかり本音をぶつかりあえる場として定着し、2019年度で15回目を迎えました。



やる気を徹底的に引き出す アクティブなゼミを追求 「日経STOCKリーグ」でも 圧倒的な評価を得ている



新 関三希代教授の研究テーマは金融商品・行動ファイナンスの実証分析。理論価格モデルが市場やデータに適合しているかどうかを検証し、併せて投資家の心理に影響される投資行動にフォーカスした研究を行っている。新関ゼミのテーマは「企業分析－実証分析と行動ファイナンス－」である。3年次の演習ではファイナンス理論や企業金融、行動ファイナンスを学び、経済パソコンソフト(EViews)によるデータを用いた実証分析の手法を習得する。これらの学習内容を深めていくために、グループ毎にサブジェクトを決めて企業分析を実施。その成果を株式投資学習のコンテスト「日経STOCKリーグ」(主催:日本経済新聞社、後援:文部科学省・他、特別協力:野村ホールディングス)でポートフォリオ分析・レポートとして発表し、圧倒的な評価を得ている。例えば、第19回(2018年度)は「大学共創～未来まで支える学びの実現～」で大学部門優秀賞(第1位:参加122校734チーム)を獲得した。「第13回、第14回、第16回でも優秀賞、第15回、第17回は敢闘賞を受賞するなど際立つ評価で全国の大学から注目され、ゼミ生にとって大きな励みになっています」。新関教授が目指しているのは、個々のやる気を徹底的に引き出すアクティブなゼミであ

る。「各グループの研究内容を全員で討議し、知識や情報を共有することによって学びを広めてほしいと願っています」。さらに、他大学と共催する「三大学ディベート大会」や「インターゼミナール」でも的確な分析力を培い、思考の瞬発力を鍛え、発表能力を強化し、4年次の卒業論文に結実させていく。



取 材当日も「日経STOCKリーグ」に向けて各グループが推し進めている直近の研究内容が発表された。そのサブジェクトは実に多様である。最初のグループのテーマは「宇宙×食～ミライを創るSpace food～」。SDGs解決策としての地球食品ビジネスと宇宙生活課題解決策としての宇宙食品ビジネスを複眼的に捉え、より良き未来社会の在り方を考察する共創プログラムである。続けて日本の労働生産性の向上を図るために、従業員のエンゲージメントに着目した「想い愛企業」、フードロス削減を目的にフードチェーン革命(企業間連携による統合的的改革)を投資テーマにした「MOTTAINAI(もったいない)ファンド」、日本の睡眠市場の経済効果に注目した「睡眠革命」、東京オリンピック×地方銀行×地方創生を着眼点にした「イベントファンを地域ファンへ」が提案された。それぞれの企画に対して新関教授から問題点や新たな視座が示され、同席す

る4年次生たちからも忌憚のない意見が述べられ、グループ間でも熱気を帯びた質疑応答が続いた。

現 在、新関ゼミには4年次生26人(男性15人・女性11人)、3年次生25人(男性13人・女性12人)が所属している。4年次生の大岩亮介さんは現代社会が直面する諸問題に経済が深く絡んでいると考え、それを解決する能力を養い、社会に貢献するために経済学部を選択した。同志社大学が掲げる自由主義、国際主義にも大きな魅力を感じたという。「このゼミを選んだのは、何よりも学生と真摯に向き合っておられる新関先生の熱意に惹かれたからです。刺激に満ちた討議の中で理解力を深め、思考力を鍛え、ディベート能力も高めることができました」。すでに就職が内定している広告業界では、企業戦略や企画制作などを通じて生活者の心を彩り、経済の向上に貢献したいと意気込んでいる。3年次生の宇田彩霞さんは国際社会で活躍するためには、日本の伝統や文化を学ぶことが必要だと考え、京都で長い歴史を刻む同志社大学に進学した。「経済学部を選択したのは実生活に直結する学問だと考えたからです。1年次生の春学期の講義で新関先生に出会った時から、このゼミに所属したいと切望していました。ゼミ生は誰もが非常に活発で、時には激論になることもありますが、それが互いの絆をさらに深めてくれます。チームで成果を目指す経験は社会に出ても役立つと確信しています」。将来は商社に入社し、人と人との強く熱い結束を大切にしながら社会の伸展を支える仕事に挑みたいと考えている。





すべての物事には 多面性があることを理解し これを考究する中で 思考力を高めてほしい



生 体は酸素を利用して生み出したエネルギーによって生命活動を維持しているが、この過程で発生する活性酸素が過剰になると酸化傷害が起こる。これを防ぐために、体内には抗酸化システムが備わっている。しかし、酸化の亢進によって防御作用が即応できなくなると酸化ストレスが蓄積され、様々な病気の原因になる。システム生命科学研究室（野口範子教授、浦野泰臣准教授、三田雄一郎助教）では、この酸化ストレスをキーワードに糖尿病や神経変性疾患であるパーキンソン病やアルツハイマー病の発症メカニズムを探究している。これらは新たな治療法や予防法、バイオマーカーの開発にも直結する研究である。例えば、2017年には2型糖尿病を悪化させるセレノプロテインPの作用を抑制する中和抗体の同定に世界で初めて成功している。

現 在、三田雄一郎助教はセレノプロテインPを標的に糖尿病発症メカニズムの解析とノンコーディングRNAによる翻訳制御の研究に取り組んでいる。セレノプロテインPは、酸化ストレス防御や甲状腺機能の維持などを担う必須微量元素セレンを各臓器に運んでいる。重要な役割を果たしているタンパク質であるが、糖尿病患者では血液中のセレノプロテインPが過剰になり病状が悪化する。「高い患者と低い患者が混在しています。その原因を解明し、研究成果を高い患者に対する集中治療に役立てたいと考えています」。もう一つの研究テーマであるノンコーディングRNAによる翻訳制御では、疾患の因子になるタンパク質の合成を止める方法を探究している。DNAから転写

されるRNA（リボ核酸）には、タンパク質をつくる情報を持ったメッセンジャーRNAと持たないノンコーディングRNAがある。「後者の一つである長鎖ノンコーディングRNAはタンパク質の合成装置であるリボソームとメッセンジャーRNAとの結合を阻害していることが判明しています。長鎖ノンコーディングRNAの標的がセレノプロテインPだけであることも確認しました。つまり、副作用の少ない治療法になる可能性が高いということです」。また、2種類の制御方法を選ぶことも重要なポイントだと三田助教は強調する。片方に耐性があつた場合も、もう一つの治療を試みることができるからである。

研 究室に所属する学生が各自の研究の進捗状況と今後の計画を発表するプログレスミーティングは毎週実施されている。「毎回、研究室の3人の教員が同席して指導しています。異なる視点からの様々な指摘や助言は学生の視野を広め、考察を深めるのに非常に有効であると考えています。また、研究に対する考え方や厳密性などを学んでもらうために、教員の研究成果の報告も組み込んでいます。何よりも重要なのは、物事には多面性があるということです。これを深く考える中で自身の思考力を高めてほしいと願っています」。システム生



命科学研究室に所属している大学院生は6人、学部生（4年次生）は9人（計15人：男性8人・女性7人）。博士課程（前期）1年次生の小槻悠介さんは高校時代にiPS細胞の作製の成功を知り、この分野に強い関心を抱き、医生命システム学科を第一志望にした。現在、セレノプロテインPの翻訳を抑制する新規ノンコーディングRNAの転写制御メカニズムを探究している。「三田先生のご指導を受けるようになってから日々の研究に確かな手応えを感じています。狙いとは逆の結果が出た時の方が探究心に火がついて面白い。物事を様々な視点から捉えるという点でも成長したと思います」。



同じく博士課程（前期）1年次生の北林奈々子さんは、医療の発展や健康の増進に貢献できる仕事を目指して医生命システム学科を選択。学部2年次生の時には文部科学省主催の「サイエンス・インカレ」で自主研究の発表も行っている。「この研究室を希望したのは野口先生の講義が興味深く、規模も大きかったからです。先輩も優秀な方ばかりで、一から教えてもらいました。女性が多いのも良いですね。研究室の枠を超えた横の繋がりも広がり、活発に議論しています」。膵臓に糖尿病を悪化させるセレノプロテインPが存在していることに疑問を抱き、これをテーマに研究を続けている。将来は化粧品会社で商品開発に携わりたいという。

分野の壁を越えて融合的な研究開発を —さまざまな科学とかかわる超音波技術—



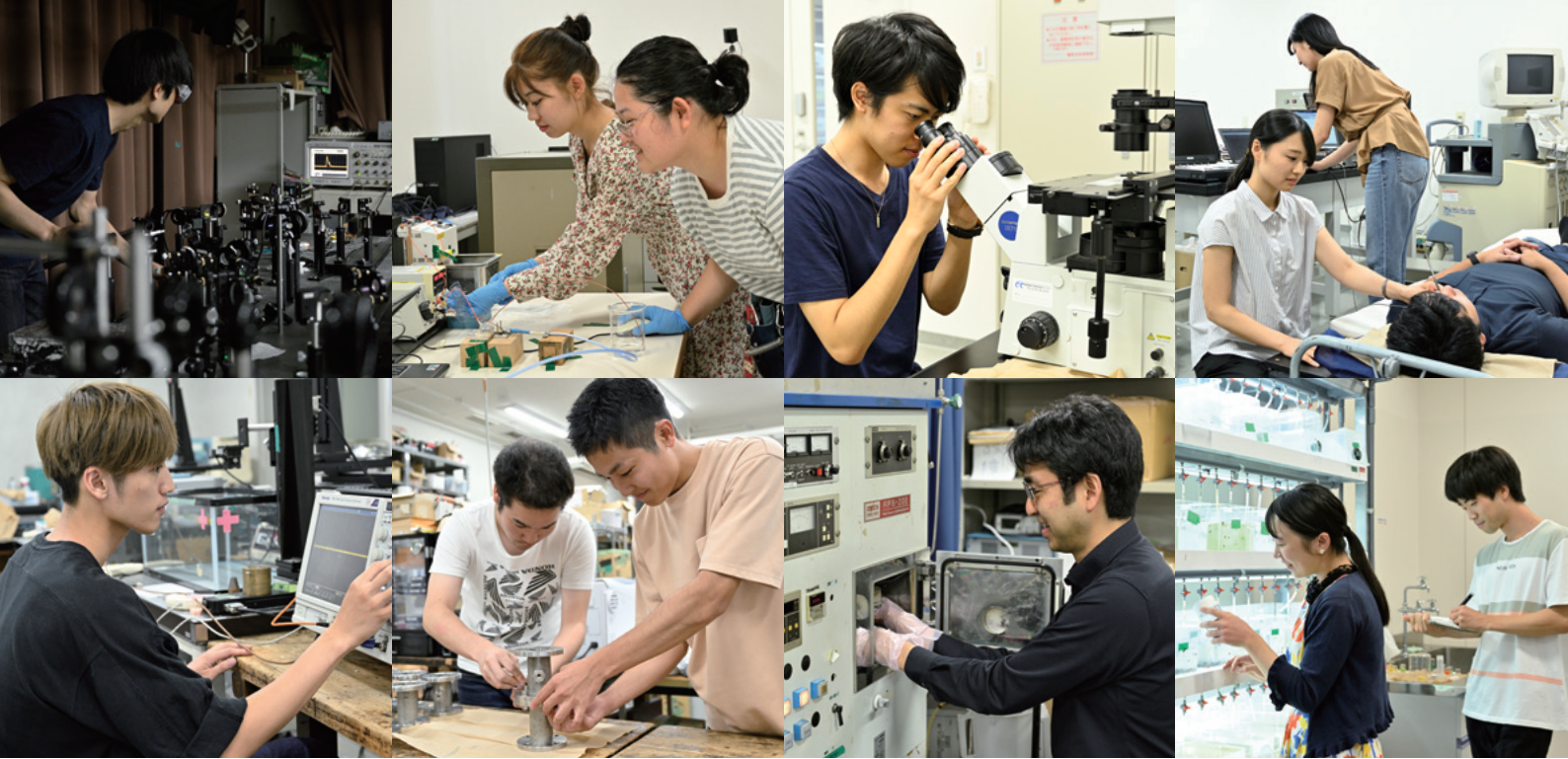
日本の超音波研究の一大拠点 産学連携による実用技術開発を目指す

「聴覚を対象としない音波(人が聴くことを目的としない音)」を用いた超音波技術は、超音波エレクトロニクスと称され、様々な分野で活用されている。その対象は工学、物理学のみならず、医学、生物学、環境学など多岐にわたり、分野横断的な研究のもと、新たな成果が期待されている。同志社大学の超音波研究は国内でも長い歴史を誇り、1949年の工学部創設時に斎藤玄三雄教授(音響工学)が創始した音響・計測工学研究室に始まる。以来、日本の超音波研究の一大拠点として数多くの先駆的な実績を積み重ねてきた。近年は超音波医科学研究センターに引き続いて、2018年4月に超音波応用科学研究センターが設置され、積極的に学内・学外の研究者との共同研究を推進するとともに、産学連携による実用技術開発を目指している。この目的のため、また、国内外の共同研究ネットワークの充実と拡大を目指し、本センターでは例会と称して、毎月テーマ別の研究会を開催しているほか、海外からの研究者による特別講演会なども行っている。さらに、若手人材の交流・育成の場として、国際学会での発表の奨励や、博士後期課程学生による成果発表報告会も実施しており、毎年10名以上の博士前期課程学生を国際学会に送り出している。本センター研究員の各研究室からは多くの研究者が輩出されており、若手の教育も極めて活発に行われている。

超音波式可変焦点レンズを開発 熱音響によるエネルギー再利用を探究

超音波の産業応用を目指し、音響放射力や圧電材料開発などを通じて新規計測・制御デバイスの開発を進めている。強い超音波の非線形性により生じる音響放射力を利用すると、様々な制御デバイスの実現が可能となる。例えば、小山大介教授(理工学部)らは、昨年、スマートフォン向けに厚さ1.5mmという極薄の可変焦点レンズを開発した。これは音響放射力を用いて、人間の眼の水晶体のように焦点距離を自在に調整できるレンズであり、スマートフォンの薄型化に役立つと注目されている。また、音響放射力によって微小物体を浮揚させて運ぶ非接触搬送デバイスの技術開発も行っている。加えて、超音波を効率的に励振する新規圧電材料の開発も進められており、高柳真司助教(生命医科学部)らのグループは、スパッタ技術を用いた圧電材料の開発と圧電薄膜センサや高周波フィルタへの応用研究を推進し、環境・医療計測への貢献を目指している。

一方、熱と音とのエネルギー変換技術、熱音響現象を利用して冷却や発電を行う熱音響システムや、熱から音波を発生するサーモフォンも最近活発に研究が進められている。例えば、渡辺好章教授(生命医科学部)らのグループが開発した熱音響冷却技術を用いれば、廃熱をエネルギー源として冷却システムを構築できる。実用化が実現すれば、自動車やプラントなどから生じる不要な熱エネルギーの再利用が可能となり、地球の環境保全に大きく貢献する画期的な研究といえよう。



骨の超音波計測で世界を牽引 コウモリの超音波エコーロケーションを解明

超音波の医用応用では、超音波とX線、MRI（磁気共鳴画像）、マイクロバブル（超微細気泡）などの技術融合による複合診断・治療技術の開発、臨床用簡易脈波計測装置を用いた頸動脈評価などを行っている。例えば、臨床用脈波計測では大動脈から頭部へ血液を送る頸動脈の脈波を圧電センサでパッシブに計測し、血管壁の硬さや脳閉塞の診断技術開発を行っている。身体への負担がなく非侵襲で脳動脈を評価でき、将来的には救急車内で利用可能な簡易計測装置の開発を目指している。

同志社大学の超音波骨計測グループは基礎から臨床計測装置開発に至るまで、国内外の医学系研究者と活発に共同研究を行っている。その一つに近年開発した安全な超音波装置による、10代の生徒の大規模臨床計測があげられる。京都府立医科大学との協働であるこの研究の目的は、各年齢の骨量基準値を確立し、将来の10代の生徒の骨成長の評価に利用するという野心的な内容を含む。計測では中高生が丈夫な骨を作るための生活指導も行い、50年後の骨粗しょう症を防ぐべく中学校や高等学校と連携してプロジェクトを進めている。

横断的な技術開発である音響センシングの領域では、コウモリに象徴される生物の高機能・高効率なメカニズムを探究し、工業計測へ活用することを目指している。昨年、飛龍志津子教授（生命医科学部）は「コウモリの生物ソナーシステムに関する研究」で日本学術振興会賞を受賞した。これは独自に開発した超小型センサシステムをコウモリに装着し、超音波ソナーの解明を試みた研究である。その結果、コウモリが目の前の餌（小さな昆虫）だけではなく、次の獲物も捕獲し易いルートを選んで飛んでいることや、周囲のコウモリからの超音波の混信を回避する策を有することを発見した。将来的には自動移動ロボットなどへの応用や、海底などの環境計測技術の開発にも貢献できればと考えている。さらに、この分野では超音波研究の基礎となる波動伝播現象などの理論・実験的検討やシミュレーション技術の開発を行い、バーチャルな音空間の創出や、コンサートホールと同様な音質の再現など、新たな研究領域を生みだしている。

超音波応用科学研究センター研究員

（大学生・大学院生除く）

松川 真美	（理工学部教授・センター長）
秋山 いわき	（生命医科学部教授）
飛龍 志津子	（生命医科学部教授）
池川 雅哉	（生命医科学部教授）
剣持 貴弘	（生命医科学部教授）
小山 大介	（理工学部教授）
眞野 功	（連携大学院客員教授・応用電機株式会社）
貞包 浩一朗	（生命医科学部准教授）
高柳 真司	（生命医科学部助教）
土屋 隆生	（理工学部教授）
渡辺 好章	（生命医科学部教授）
吉川 研一	（生命医科学部客員教授）
藤岡 慧明	（生命医科学部特別研究員）
馬 越	（生命医科学部特別研究員）
鷹取 慧	（生命医科学部特別研究員）
北村 暁晴	（日立造船株式会社）
近藤 淳	（静岡大学教授）
長谷 一磨	（名古屋大学特別研究員）
長谷川 英之	（富山大学教授）
細川 篤	（明石工業高等専門学校准教授）
水野 勝紀	（東京大学助教）
長谷 芳樹	（ピクシーダストテクノロジーズ株式会社）
野村 英之	（電気通信大学准教授）
奥村 成皓	（株式会社 マリ）
李 香福	（日本女子大学 特任助教）
坂本 眞一	（滋賀県立大学准教授）
末利 良一	（古野電気株式会社）
角谷 美和	（情報通信研究機構特別研究員）
瀧 宏文	（株式会社 マリ）
塚本 哲	（防衛大学准教授）
山田 恭史	（広島大学特別研究員）
柳谷 隆彦	（早稲田大学准教授）
吉田 憲司	（千葉大学助教）
Guillaume Haïat	（パリ東大学CNRS Director）
Marie Pierre Krafft	（ストラスブール大学教授）
Pierre-Yves Lagrée	（ソルボンヌ大学ダランベール研究所長）

来年度就職を目指す皆さんへ

「充実した学生生活と十分な準備を」

就職を取り巻く状況

現4年次生（2020年4月採用）の就職活動スケジュールは昨年同様となり、企業の広報活動の開始時期が3年次生の3月から、採用選考活動の開始時期が4年次生の6月からとなりました。ただし、経団連加盟企業も含めてこの日程によらない企業も多数ありました。学生の「売り手市場」が続き、人材の獲得競争が過熱するなか、企業の動きが早期化した一方、準備不足のまま就職活動本番に突入してしまった学生も多くいたようです。結果として、「売り手市場」と言われる状況にもかかわらず、7月以降も活動を継続する学生が少なからず存在しました。

キャリアセンターでは、昨年10月上旬に第1回就職ガイダンスを開催し、現3年次生への就職支援を開始しました。そこでは前年度の反省を踏まえて、事前準備の大切さをお伝えしましたが、2月までの就職活動準備期間に様々な準備が必要となります。インターンシップに参加することだけが準備ではありません。キャリアセンターの様々なプログラムを中心に、自己分析、業界研究、仕事研究を行い、自身のキャリアについて考え抜いてください。この準備期間をしっかり過ごすことが就職活動を成功に導き、将来、自身の個性を活かして活躍できる場を見つけるためには大切です。2020年3月には、今出川に約630社、京田辺に約370社と全国の大学でも有数の規模で企業研究セミナーを開催します。このセミナーには、幅広い業界、地域から、規模も様々な企業が、同志社大学生を採用するために参加されますので、ここでできるだけ多くの企業の説明を聞き、志望業界や企業を的確に絞り込んでください。また、キャリアセンターでは学生一人ひとりの個性を活かすため、各種セミナーの他、個別相談にも力を入れています。積極的に利用してください。

現4年次生の採用状況については、一般的には好調のうちに推移していると見ています。リーマンショック以降「厳選採用」が定着してきましたが、景況感

の改善等により、今年も「売り手市場」と言われています。しかし、多くの企業では基準を下げてまで採用していません。グローバルな経済環境の中で国際競争に勝ち抜くためには、企業の発展を支える次世代を担う人材を確保する必要があり、そのために「厳選採用」の姿勢が堅持されています。企業は単に数合わせで採用しているのではなく、「コアになる人材が欲しい」と考えているのです。

近年では一人で複数の内々定を得る学生がいる一方で、なかなか内々定を得られず、長期化を余儀なくされる学生もいるといった二極化傾向がより顕著になってきました。就職活動を終えた先輩達のアンケート調査を見ると、応募先選取段階での反省点として、「知名度にこだわりすぎた」「職種にこだわりすぎた」「勤務地にこだわりすぎた」、面接・試験段階での反省点として、「志望動機があいまい」「自己分析が不十分」「自己PRの不足」「SPI、一般常識の勉強不足」があげられています。「売り手市場」であっても、自己分析や業界・企業研究の不足、筆記試験の準備不足、自己のイメージだけで就職活動を行ったことで苦戦したケースも見受けられます。学内セミナー、講座等（次頁参照）を積極的に活用し、早目に準備することが大切です。また、消費者の目に触れない企業であっても業績を伸ばし、発展している企業は数多くあります。就職活動が長期化した学生も、就職活動を進めるうちに自分に合った企業を見る視点が定まり、最終的には満足 of いく就職先を決定しているケースも多くあります。目先の企業選びではなく、自分自身がどのような道を歩みたいのか、早い段階から働くという視点を持って考えてください。

企業の求める人材

それでは、企業はどのような人材を求めているのでしょうか。経済産業省が、職場や地域社会の中で多様な人々と共に仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力を「社会人基礎力」として提唱しています。「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」、「チー

ムで働く力（チームワーク）」の3つの能力を軸に主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力等の12の要素に区分し、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「どう活躍するか」の3つの視点でキャリアを切り開いていくことが必要です。この12の要素のうち最も重要だと考えられる要素として、企業は「主体性」と「実行力」をあげています。経団連が実施したアンケートによりますと、企業が選考時に重視する能力の1位は16年連続で「コミュニケーション能力」でした。2位以下は「主体性」、「チャレンジ精神」、「協調性」と続いています。企業が新卒の学生に求める力は、「コミュニケーション能力を有しつつ、自ら主体的に行動し、実行する力」と集約できるでしょう。誤解しないでほしいのは、「コミュニケーション能力」は友人との会話ができるということではありません。グローバル化が進展する中で、語学力を評価する企業が増えています。単に「語学が得意」だけでは評価されません。社会人基礎力を備えた上での語学力、すなわち様々な価値観を持った人達の意見を傾聴し、その上で自分の意見を発信できる力が必要とされているのです。

充実した学生生活を

社会人基礎力を身につけるためには、何事にもチャレンジすることが大切です。授業はもとよりクラブ・サークルやボランティア活動あるいはアルバイトを含めて、自分の興味・関心のあるものを見いだし、それに真剣に取り組んで達成感を味わうこと、失敗や挫折を経験することが、自らを一回りも二回りも成長させます。そして、そのような行動をとる中で、自ずと社会に向ける目も広がり、多くの人と関わることで「人間力」が磨き上げられます。様々な経験を積み重ねることが卒業後の人生を豊かにするとともに、その過程で様々な気づきをして成長した学生に企業は魅力を感じ、結果として、就職活動における評価にも繋がります。漫然とした日々を送るのではなく、常に何かにチャレンジする充実した学生生活を送ってください。

来年度就職を目指す皆さんへ

皆さんが就職する目的は、「社会での自立」、「社会参加による貢献」、「能力を生かした自己実現」などになるかと思いますが、そのためにはまず、自分自身を知ること（自己理解）が就職活動の第一歩となります。そして、自分のやりたいことがどのような職業で実現できるのか、自分の力がどのように職場で発揮できるのか、既に就職活動を進めている方も今一度熟考してください。それを考える手段として、学内セミナー等への参加やOB・OG訪問などで幅広く情報を収集することが大切です。これらを経て、自分のやりたい職業、働きたい企業を見だし、業務内容をよく調べ、「自分はこの会社でどのように働きたいか」を話せるようにしておくことが重要です。採用担当者は、面接などのやりとりから、熱意、主体性、コミュニケーション能力、問題意識や行動力を見極め、「一緒に仕事をしたい人物か」どうかを判断するからです。皆さんにとって魅力ある企業は必ず発見できるはずです。今、知っている企業が自分にとって良い企業とは限りません。自分が仕事をする上で、マッチする企業をこれから見つけていってほしいと思います。自分を信じて就職活動に前向きにチャレンジしてください。

今年度就職活動をした先輩からのメッセージ

（「2019年度 就職に関するアンケート」から）

面接では自分のこれまでやってきたことに自信を持って、後悔のないようにアピールすると面接官にも伝わると思います。頑張ってください。

文学部 女性

就職活動を進めていくうちに、第1志望は変わります。自分の目指す業界があることは良いことですが、視野を広げると面白い仕事は他にもたくさんあるのだと実感した就職活動でした。自分の人生にとってすごく大切な時間になったと思っています。

社会学部 女性

自己分析から足を運んで得た体験をもとに自己分析と業界・企業分析の双方をしっかりと行い、「業界・企業と自身の繋がり」を意識して、業界・企業選択や面接対策を行うことが大切だと感じました。「企業と自身の繋がりや共通点」を理解した上で、その企業で成し遂げたい夢ややりたいことを伝えれば、面接官に「一緒に働きたい」と思ってもらえることができると感じました。

法学部 男性

ネット上に氾濫している就活情報やマナーを鵜呑みにしてはいけません。本当に必要な情報かどうか、しっかりと吟味してほしい。

経済学部 男性

就職活動は、ただ企業を決めるための活動ではなく、自分の考え方や価値観を広げてくれるとても良い機会です。乗り越えた先を手に入れるよう、応援しています。

商学部 女性

就職活動は準備が9割、本番の体調管理が1割だと思いました。新聞を毎日読む、業界・企業に関する記事に自身のコメントを残す練習、下調べしたことを逆質問に応用する、説明会、インターン、就活セミナーなど実際に足を運んだりお金を払って得

たものは必ず役に立ちますし、他の就活生と差をつける武器になります。

才能がないと感じていても、努力することで成功できると思いました。

ただ、何でもかんでもやればいいというわけではありません。自分がやることに意味を見いだせるかどうかは自分次第だと思います。新聞を読むのも、説明会に行くのも、目的を明確に持っていないと活かせるものも活かせなくなってしまいます。時間を効率よく使うために、情報や機会の取捨選択は非常に重要だと思いました。

スポーツ健康科学部 女性

周りの意見に流されすぎず、自分の芯を持って取り組んでください。

生命医科学研究科 男性

面接では大学時代にこれは頑張った!と自信を持てるものが一つでもいいから不可欠だと思います。院生ならば研究に打ち込むことも大切だと考えます。そして、その会社に入りたいんだという誰にも負けない熱意は面接官にきっと伝わります。

理工学研究科 女性

自己分析を行うことが重要であると感じました。特に、今のうちから自分がしてきた行動に対して、なぜその行動をしたのか・行動するにおいてどのような困難があり、どのように困難を乗り越えたのかを分析していると就職活動で必ず役に立つと思います。

理工学研究科 男性

就職活動はスピード勝負の情報戦です。いかに早く多くの情報を得るかが重要です。またインターンシップを活用したり、友人と情報交換したり、アナログに情報を集めることも大切です。

理工学研究科 男性

今後のスケジュール

詳細・追加・変更については、キャリア支援システム「e-career」、キャリアセンター掲示板で随時お知らせします。

e-career

<https://e-career.doshisha.ac.jp/>



プログラム名	開催時期(今出川)	開催時期(京田辺)
第2回就職ガイダンス 就職希望者必須参加	12月13日(金) 4.5講時 12月16日(月) 4.5講時	12月16日(月) 4.5講時 12月18日(水) 4講時
第3回就職ガイダンス 就職希望者必須参加	2月18日(火) 2.3講時 2月19日(水) 3講時	2月17日(月) 3講時 2月18日(火) 3講時
自己分析セミナー	2月18日(火) 4講時	2月17日(月) 4講時
自己分析セミナー【実践編】	11月下旬開催予定 1月~2月開催予定	11月下旬開催予定 1月~2月開催予定
エントリーシートセミナー・講座	開催中~4月	開催中~4月
面接講座	1月以降開催予定	1月以降開催予定
人事担当者による面接のポイントセミナー	2月下旬開催予定	2月下旬開催予定
グループディスカッション対策講座	12月以降開催予定	12月以降開催予定
四季報・業界地図・新聞の読み方	2月中旬開催予定	2月中旬開催予定
業界研究セミナー	開催中~11月下旬	開催中~11月下旬
業界研究 パネルディスカッション	11月 8日(金) 3講時 11月22日(金) 3講時	11月 8日(金) 5講時 11月22日(金) 5講時

プログラム名	開催時期(今出川)	開催時期(京田辺)
仕事研究セミナー ・営業の仕事 ・企画・開発の仕事 ・人事の本音 Vol.2	11月12日(火) 5講時 11月20日(水) 3講時 12月 5日(木) 5講時	11月12日(火) 3講時 11月20日(水) 5講時 12月 5日(木) 3講時
若手社員との交流会	11月22日(金) 4講時	12月18日(水) 5講時
公務員業務説明会	12月、4月 開催予定	12月、4月 開催予定
公立学校教員業務説明会	12月、4月 開催予定	12月、4月 開催予定
Uターン・Iターンセミナー	11月18日(月) 13:15-14:45	11月19日(火) 13:15-14:45
Uターン・Iターン相談会	11月18日(月) 14:00-17:30	11月19日(火) 14:00-17:30
就職活動体験談を聞く会	11月~2月開催予定	11月~2月開催予定
内定者相談コーナー	11月~2月開催予定	11月~2月開催予定
企業研究セミナー (約1000社の個別企業説明会)	3月2日(月)~3月12日(木) ※日除く	3月2日(月)~3月9日(月) ※土日除く
学内企業セミナー	2020年6月以降予定	2020年6月以降予定

※11月以前に開催したセミナーについては、「e-career」で視聴可能なセミナーもあります。「e-career」より確認ください。

個別相談(両校地)

キャリアセンターでは、キャリアセンタースタッフや経験豊富なキャリアアドバイザーが、進路や就職活動に関する悩みや疑問等の相談に応じます。どんなことでも構いませんので、気軽に利用してください。



同志社校友会バリ大懇親会



新入下宿生交流会



朝食倶楽部

同志社校友会活動、同志社大学との連携

世界に広がる「同志社ネットワーク」
これまで33万人の校友会員が国内外で活躍

同志社校友会

同志社創立から10年後の1885年(明治18年)に「アルムニ(Alumni)会」という名前をもって発足したのが同志社校友会の始まりです。同志社小学校・同志社中学校・高等学校、同志社香里中学校・高等学校、同志社国際中学校・高等学校、同志社国際学院初等部・国際部、同志社大学の卒業生および、大学院修了生で組織されています。これまで約33万人の校友会員が国内外で活躍し、その交流の拠点となっているのが校友会です。

同志社校友会基本方針

同志社校友会は、同志社の発展に寄与するという目的を掲げ、支部の基盤を強化し、大学事業支援、学生支援、卒業後の社会人活動支援に軸を置いて活動を行っています。近年は海外支部との連携も深まり、大学のグローバルな展開の支援も行っています。



同志社校友会会長
井上 礼之

昭和32年経済学部卒業
ダイキン工業株式会社
取締役会長 兼
グローバルグループ
代表執行役員

主な社外歴
日本経済団体連合会 常任幹事
関西経済同友会 代表幹事(平成11年~平成13年)
関西経済連合会 副会長(平成13年~現在)
阪急阪神ホールディングス(株)、関西電力(株)、
(株)大阪国際会議場、テレビ大阪(株)4社の社外取締役 等

校友会活動を通して、学生生活だけでなく卒業後もサポートしています。

学生の皆さんへ

キャンパスライフでのサポート

①各種奨学金制度(給付型)

- 同志社校友会奨学金
- 同志社スポーツ奨学金
- 同志社校友会グローバル人材育成奨学金(海外留学支援)

②学生緊急支援制度(学生セーフティーネット)

様々な理由により経済的に学業の継続が困難になった場合に、大学と連携して緊急支援を行います。

③大学連携事業

大学と連携した企画やサポート企画、毎週1回「100円」でおいしい朝食を学食

で提供する「朝食倶楽部」への支援など、学生の皆さんのキャンパスライフが豊かになるよう大学と一緒に支援を行っています。

④京田辺活性化支援

⑤学生課外活動支援

支部総会や地方でのイベントなど校友会とクラブが連携して行う活動の支援や、クラブ課外活動の告知サポートなど。

⑥学生海外活動支援

海外の支部や校友会員の企業を拠点として、留学生活サポートや海外インターンシップを応援します。

⑦国内外支部との連携

地元への就職や新しい土地への赴任先の最新の情報にアクセスできるよう、国内外支部連携や活動を支援しています。

卒業後のサポート

「校友会のネットワーク」を活かす!

就職や転職の情報が知りたい!就職、転職、転居が決まった!そんな時は「その地域の支部」に連絡してみてください。あなたの先輩がいろんな情報を教えてくれます。

そして同志社を卒業したあなたは「校友会員」です。「同志社校友会大懇親会」や支部の企画に参加してみましょう。諸先輩から有用な情報や、時には適切な人脈を紹介してもらえるかもしれません。ビジネスだけでなく趣味や生活など「ここだけの校友会情報」がたっぷり。

同志社校友会のネットワークは学生の皆さんの「キャンパスライフ」と卒業後の「同志社ライフ」が豊かになるよう、ワールドワイドに展開しています。

世界に広がる「同志社ネットワーク」

http://www.doshisha-alumni.gr.jp/ (2019年10月15日現在)

会員情報の変更・会費についてのお問い合わせはこちらまで。

TEL: 075-251-3087 E-mail: info04@doshisha-alumni.org
http://www.doshisha-alumni.gr.jp/kaiin/about.html 担当: 田邊(た)とう

国内支部 (48支部)

北海道支部 TEL: 011-382-2188

E-mail: info@hokkaido.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://hokkaido.doshisha-alumni.org

青森県支部 TEL: 090-4044-7071

E-mail: info@aomori.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.aomori.doshisha-alumni.org

岩手支部 TEL: 090-1376-7374

E-mail: info@iwate.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.iwate.doshisha-alumni.org

宮城県支部 TEL: 022-378-1253

E-mail: info@miyagi.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.miyagi.doshisha-alumni.org

秋田県支部 TEL: 018-823-0730

E-mail: info@akita.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://akita.doshisha-alumni.org

山形県支部 TEL: 023-622-7195

E-mail: info@yamagata.doshisha-alumni.org

福島県支部 TEL: 0248-25-2046

E-mail: info@fukushima.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://fukushima.doshisha-alumni.org

茨城県支部 TEL: 0297-83-5630

E-mail: info@ibaraki.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://ibaraki.doshisha-alumni.org

栃木県支部 TEL: 028-622-8844

E-mail: info@tochigi.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.tochigi.doshisha-alumni.org

群馬県支部 TEL: 027-283-9444

E-mail: info@gunma.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.gunma.doshisha-alumni.org

埼玉県支部 TEL: 090-5318-7340

E-mail: info@saitama.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.saitama.doshisha-alumni.org

千葉県支部 TEL: 080-9527-4831

E-mail: info@chiba.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.chiba.doshisha-alumni.org

東京支部 TEL: 03-5579-9728

E-mail: office@doshisha-tokyo-alumni.jp
HPアドレス: http://doshisha-tokyo-alumni.jp

神奈川県支部 TEL: 045-851-8260

E-mail: info@kanagawa.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://kanagawa.doshisha-alumni.org

山梨県支部 TEL: 090-6158-1058

E-mail: info@yamanashi.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.yamanashi.doshisha-alumni.org

長野県支部 TEL: 026-259-8610

E-mail: info@nagano.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.nagano.doshisha-alumni.org

新潟県支部 TEL: 025-247-7117

E-mail: info@niigata.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.niigata.doshisha-alumni.org

富山県支部 TEL: 076-421-8585

E-mail: info@toyama.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.toyama.doshisha-alumni.org

石川県支部 TEL: 076-266-0555

E-mail: info@ishikawa.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.ishikawa.doshisha-alumni.org

福井県支部 TEL: 090-3767-8114

岐阜県支部 TEL: 058-214-9000

E-mail: info@gifu.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.gifu.doshisha-alumni.org

静岡県支部 TEL: 054-237-5181

E-mail: info@shizuoka.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.shizuoka.doshisha-alumni.org

愛知県支部 TEL: 0562-83-3460

E-mail: sen.kataoka@ma.medias.ne.jp
HPアドレス: http://www.doshisha-aichi.com

三重県支部 TEL: 059-333-5581

E-mail: info@mie.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.mie.doshisha-alumni.org

滋賀県支部 TEL: 077-579-8601

E-mail: info@shiga.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.shiga.doshisha-alumni.org

京都支部 TEL: 090-6489-9697

E-mail: info@kyoto.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.kyoto.doshisha-alumni.org

大阪支部 TEL: 06-6308-2288

E-mail: info@osaka.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.doshisha-osaka.jp

兵庫県支部 TEL: 078-232-7100

E-mail: info@doshisha-hyogo.org
HPアドレス: http://www.doshisha-hyogo.org

奈良県支部 TEL: 0742-27-1550

E-mail: info@nara.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.nara.doshisha-alumni.org

和歌山県支部 TEL: 073-432-5776

E-mail: info@wakayama.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.wakayama.doshisha-alumni.org

鳥取県支部 TEL: 0859-24-0551

E-mail: info@tottori.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.tottori.doshisha-alumni.org

島根県支部 TEL: 0852-28-5898

E-mail: tewt181@ezweb.ne.jp

岡山県支部 TEL: 090-3746-5612

E-mail: info@okayama.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.okayama.doshisha-alumni.org

広島県支部 TEL: 090-3742-1471

E-mail: info@hiroshima.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.hiroshima.doshisha-alumni.org

山口県支部 TEL: 0827-31-9346

E-mail: hioriuchi@sky.icn-tv.ne.jp

徳島県支部 TEL: 088-653-0002

E-mail: fc8j6p@bma.biglobe.ne.jp
HPアドレス: http://www.tokushima.doshisha-alumni.org

香川県支部 TEL: 087-891-9213

E-mail: info@kagawa.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.kagawa.doshisha-alumni.org

愛媛県支部 TEL: 080-6385-7545

E-mail: info@ehime.doshisha-alumni.org

高知県支部 TEL: 088-884-1703

E-mail: harimaya@isis.ocn.ne.jp

福岡支部 TEL: 092-632-8222

E-mail: fukuoka.doshisha@gmail.com
HPアドレス: http://doshisha-fukuoka.com

北九州支部 TEL: 093-621-3646

E-mail: info@kitakyushu.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.kitakyushu.doshisha-alumni.org

佐賀県支部 TEL: 0952-62-1198

E-mail: info@saga.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.saga.doshisha-alumni.org

長崎県支部 TEL: 095-825-1723

E-mail: info@nagasaki.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.nagasaki.doshisha-alumni.org

熊本県支部 TEL: 096-243-1221

E-mail: info@kumamoto.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.kumamoto.doshisha-alumni.org

大分県支部 TEL: 097-574-7225

E-mail: info@oita.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.oita.doshisha-alumni.org

宮崎県支部 TEL: 0985-23-9081

E-mail: info@miyazaki.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.miyazaki.doshisha-alumni.org

鹿児島県支部 TEL: 099-202-0732

E-mail: info@kagoshima.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.kagoshima.doshisha-alumni.org

沖縄県支部 TEL: 098-933-9956

E-mail: info@okinawa.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.okinawa.doshisha-alumni.org

海外支部 (34支部)

ニューヨーク同志社

E-mail: nydoshishakaijimukyoku@gmail.com
HPアドレス: http://www.ny.doshisha-alumni.org

ワシントンDC同志社

E-mail: info@washington.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.washington.doshisha-alumni.org

米国中西部支部

E-mail: info@us-midwest.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.us-midwest.doshisha-alumni.org

米国西部支部

E-mail: info@us-west.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.us-west.doshisha-alumni.org

同志社校友会トロント支部 (同志社トロント会)

E-mail: revariga@yahoo.ca

カナダ同志社バンクーバー会

E-mail: doshishavancouver@hotmail.com
HPアドレス: https://www.facebook.com/groups/872835306084224/

ブラジル・サンパウロ同志社

E-mail: info@sp-brasil.doshisha-alumni.org

韓国校友会

住所: 05607 Lake Palace 125-1803.88,
Jamsil-ro, Songpa-gu, Seoul, Republic of Korea

香港支部・香港クローバー会

E-mail: doshisha_hk@yahoo.co.jp

北京クローバー会

E-mail: atsushi.okushima@horiba.com
HPアドレス: http://doshisha-sh.wix.com/doshisha-sh#untitled/c1095

大連同志社クローバー会

E-mail: huaqing_wang1111@yahoo.co.jp

同志社大学上海クローバー会

E-mail: doshishash@gmail.com
HPアドレス: http://doshisha-sh.wix.com/doshisha-sh

広州クローバー会

E-mail: matsuoaka.yohei@hotmail.co.jp

青島クローバー会

E-mail: info@qd-china.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.qd-china.doshisha-alumni.org

台湾支部

E-mail: kaelisa888@gmail.com

同志社校友会ベトナム支部今出川倶楽部

E-mail: info@vietnam.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.vietnam.doshisha-alumni.org

フィリピン・マニラ・クローバー会

E-mail: info@manila.doshisha-alumni.org

タイ・泰国同志社クローバー会

TEL: 6686-088-3291

マレーシア新島会

E-mail: kogure_1969@hotmail.com
HPアドレス: http://www38.tok2.com/home/masniijimakai/

シンガポール・クローバー会

E-mail: koji_kida@canon.com.sg

インドネシア・クローバー会

E-mail: takeda-takashi@hnp.co.jp
takatama4190@yahoo.co.jp

オーストラリア・クローバークラブ シドニー支部

E-mail: taka_c_hk2010@hotmail.co.jp
HPアドレス: http://www.sydney.doshisha-alumni.org

オーストラリア・クローバークラブ ブリスベン支部

E-mail: info@brisbane.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://brisbane.doshisha-alumni.org

トルコ・イスタンブールクローバー会

E-mail: minoru.iwamura@nipponpaint.jp

ドイツクローバー会

E-mail: doshishaclover@yahoo.com
HPアドレス: http://www.germany.doshisha-alumni.org

パリ同志社クローバー会

E-mail: doshishaparis@gmail.com
HPアドレス: http://www.paris.doshisha-alumni.org

同志社スペイン会

E-mail: info@spain.doshisha-alumni.org
HPアドレス: http://www.spain.doshisha-alumni.org

ロンドンクローバー会

E-mail: atsukoconsole@gmail.com

フィレンツェクローバー会

E-mail: italia.clover.alumni@gmail.com

ミラノクローバー会

E-mail: takayuki.kamekawa@daikin.it

同志社校友会ミャンマー支部

E-mail: info@myanmar.doshisha-alumni.org

同志社校友会ベルギー支部

E-mail: fumihiro.sano@daikin.co.jp
HPアドレス: http://belgium.doshisha-alumni.org

インド・デリー・クローバー会

E-mail: bfj0592@gmail.com

インド・バンガロール・クローバー会

E-mail: doshisha.bangalore@gmail.com
HPアドレス: https://www.facebook.com/groups/2345992918975420/



クリスマス・イルミネーション点灯式



アドベントを前に各地でクリスマスイルミネーションが灯り始めるころ、同志社大学でも点灯式を催しています。

今出川校地のツリーは、西門を入って北側に広がる、彰栄館・同志社礼拝堂・良心館に囲まれたサンクタスコートのヒマラヤスギが2014年からその役割を担い、京都の冬の風物詩として

広く親しまれている今出川校地の点灯式に、新たな歴史を刻み始めました。

京田辺校地で3代目となるツリーは、2019年に植えられたばかりのヒマラヤスギです。正門を入ってすぐの同志社ローム記念館前にあるため学外からも望むことができ、キャンパスのシンボルとして育っていくことが期待されています。

今出川校地

11月21日(木) 17:15～17:45(予定)
西門北側サンクタスコート
ヒマラヤスギ周辺

京田辺校地

12月2日(月) 16:45～17:15(予定)
同志社ローム記念館前

第144回 同志社EVE

同志社EVEとは、同志社大学の創立記念日である11月29日を祝し、同志社大学生の手によって創り上げられる同志社最大の行事です。

EVE期間(11月1日～28日)の中でも、特に出店期間(11月26日～28日)は今出川キャンパス構内に関西を代表する規模の出店やステージ、イルミネーションが立ち並びます。

今年度のテーマである『0話から始まる新たなEVE』は、令和初のEVEとして先輩方が遺した伝統を体現し、また物語を新しく0話から始めるようなEVEを目標とします。

このテーマを胸に、同志社大学生や来場者の方々にEVEの新たな魅力を届け、感動を与えられるようなEVEを目指します。



第144回同志社EVE パンフレット表紙

EVE出店期間 企画紹介

日にち	時間	企画	場所
26日(火)	12:00～13:00	オープニングセレモニー	ランダムステージ
	16:00～18:00	お笑いライブ	寒梅館ハーディーホール
27日(水)	13:00～13:30	EVEワールドミュージックフェスティバル	サンクンモール
	17:00～17:30	イブモネア	サンクンモール
	18:00～19:00	No.144 ～EVE NIGHT CLUB～	ランダムステージ
28日(木)	13:00～14:00	トークショー	寒梅館ハーディーホール
	15:00～16:00	エンディングセレモニー	ランダムステージ

日にち	企画
26日(火)	EVE STAGE [場所] サンクンモール
28日(木)	VRお化け屋敷 [場所] 神学館地下1階

WEBでCHECK!

課外活動総合WEBサイト「D-Live」

「D-Live」では、学生団体の活動やイベントの最新情報をご紹介します。
ぜひアクセスして日程をご確認の上、応援やイベントへご参加ください。

今すぐ
アクセス!

同志社 dlive

検索

<http://www.d-live.info/>



DOSHISHA

SPORTS

www.d-live.info/sports/

体育会をはじめとした公認団体・登録団体の
クラブ紹介や試合の日程をご覧ください。



DOSHISHA

CULTURE

www.d-live.info/culture/

文化系公認団体・登録団体のクラブ紹介や
活動の予定をご覧ください。



2019年度 卒業式・学位授与式(学部・大学院)		
日時	学部・研究科	場所
3月20日 (金・祝)	10:00 法学部・法学研究科	栄光館 (今出川校地)
	12:30 文学部・文学研究科	
	15:00 神学部・神学研究科、社会学部・社会学研究科、 グローバル地域文化学部、国際教育インスティテュート	
3月21日 (土)	10:00 政策学部・総合政策科学研究科、 グローバル・スタディーズ研究科、 司法研究科、ビジネス研究科	デイヴィス 記念館 (京田辺校地)
	12:30 商学部・商学研究科	
	15:00 経済学部・経済学研究科	
3月22日 (日)	10:00 文化情報学部・文化情報学研究科、 生命医科学部・生命医科学研究科、 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科、 心理学部・心理学研究科、 グローバル・コミュニケーション学部、脳科学研究科	デイヴィス 記念館 (京田辺校地)
	13:00 理工学部・理工学研究科	

2020年度 入学式(学部・大学院)		
日時	学部・研究科	場所
4月1日 (水)	10:00 商学部、理工学部、生命医科学部、 グローバル・コミュニケーション学部	デイヴィス 記念館 (京田辺校地)
	12:00 神学部、法学部、経済学部、心理学部、 グローバル地域文化学部	
	14:00 文学部、社会学部、政策学部、文化情報学部、 スポーツ健康科学部、国際教育インスティテュート	
4月3日 (金)	10:00 全研究科	栄光館 (今出川校地)

2020年4月からスタートする 「高等教育の修学支援新制度」の 在学生(学部生)を対象とした 申請受付を行います

同志社大学は、「高等教育の修学支援新制度」(国の新しい奨学金等の制度)の支援対象大学となりました。2020年度以降も在籍し(修業年限内)、家計の経済状況や学業成績・学修意欲等の基準を満たす在学生(学部生)の皆さんも申請によりこの制度による日本学生支援機構給付奨学金と本学の授業料等減免を受けることができます。

これまでの日本学生支援機構給付奨学金に比べ、支援対象が大幅に拡がりますので、希望者は、条件を確認のうえ申請してください。

詳しくはこちらをご覧ください

同志社大学奨学金のウェブページ
「高等教育の修学支援新制度」について
https://www.doshisha.ac.jp/scholarships/latest_information/for_faculty.html#kuni



日本学生支援機構給付奨学金 申請書類提出受付

2019年 11月1日(金)~22日(金)

希望者は、まず各校地の学生生活課の窓口で日本学生支援機構「給付奨学金案内」を受け取り、上記期間に申請書類を提出してください。その後の詳しい手続と授業料等減免の手続については上記ウェブページをご覧ください。

【問合せ先】

学生生活課 電話(今出川)075-251-3280・(京田辺)0774-65-7430



同志社大学公式 Facebook
<https://www.facebook.com/doshisha.university>



同志社大学公式 twitter
https://twitter.com/DoshishaUniv_PR





本学教員の執筆図書紹介

図書館調べ(価格は税別)

引用の文学史

伊藤玄吾 他 著 水声社 5,000円

資本主義がわかる経済学

大野隆 他 著 大月書店 2,000円

芥川龍之介選 英米怪異・幻想譚

藤井光 他 訳 岩波書店 2,600円

いま、教育と教育学を問い直す

小野文生 他 著 東信堂 3,200円

抗加齢医学入門 第3版

米井嘉一 著 慶應義塾大学出版会 4,000円

グローバル研究開発人材の育成とマネジメント

宮本大 他 著 中央経済社 3,300円

現代韓国を生きる若者の自立と親子の戦略

尹鈺喜 著 風間書房 6,500円

行政法の基本 第7版

佐伯彰洋 他 著 法律文化社 2,700円

アフリカ安全保障論入門

峯陽一 他 著 晃洋書房 3,000円

文化経済学

八木匡 他 著 有斐閣 2,900円

理工系要論 微分積分

齋藤誠慈 近藤弘一 著 培風館 2,200円

エッセンシャル法学 第7版

奥村正雄 川本哲郎 松原久利 十河太郎 川崎友巳 他 著 成文堂 2,900円

社会心理学 補訂版

池田謙一 他 著 有斐閣 3,200円

資料が語る災害の記録と記憶

若林邦彦 他 著 朝倉書店 3,400円

開発と汚職

小山田英治 著 明石書店 4,800円

文化人類学の思考法

渡辺文 他 著 世界思想社 1,800円

国宝 一遍聖絵の全貌

鋤柄俊夫 他 著 高志書院 2,500円

文学部のリアル、東アジアの人文学

植木朝子 他 著 新泉社 1,950円

ジェンダーと生政治

菅野優香 他 著 臨川書店 4,000円

民法の基礎2 物権 第2版

佐久間毅 著 有斐閣 2,400円

コンテンツツーリズム研究 増補改訂版

佐藤翔 他 著 福村出版 2,400円

森林生態学

大園享司 他 著 朝倉書店 3,200円

標準生理学 第9版

藤山文乃 他 著 医学書院 12,000円

宗教と社会の戦後史

小原克博 他 著 東京大学出版会 3,400円

北朝鮮を知るための55章 第2版

太田修 他 著 明石書店 2,000円

ロースクール民事訴訟法 第5版

中西正 他 著 有斐閣 5,300円

よくわかるメディア法 第2版

伊藤高史 他 著 ミネルヴァ書房 2,800円

国語語彙史の研究 三十八

山本佐和子 他 著 和泉書院 11,000円

入門アメリカ経済Q&A 100

村山裕三 他 著 中央経済社 3,000円

行動分析学事典

武藤崇 他 編著 青山謙二郎 他 著 丸善出版 20,000円

国際関係私法入門 第4版

高杉直 吉川英一郎 他 著 有斐閣 2,500円

「承認欲求」の呪縛

太田肇 著 新潮社 780円

マグナ・カルタの800年

戒能通弘 訳 関西学院大学出版会 3,500円

メディア用語基本事典 第2版

池田謙一 伊藤高史 遠藤徹 小黒純 勝野宏史 河崎吉紀 佐伯順子 志柿浩一郎 田口哲也 竹内長武 他 著 世界思想社 2,700円

古代寺院の芸術世界

中安真理 他 著 竹林舎 14,000円

人類の起源、宗教の誕生

小原克博 他 著 平凡社 840円

女性と闘争

林葉子 他 著 青弓社 2,800円

ボランティア・市民活動実践論

上野谷加代子 木原活信 他 著 ミネルヴァ書房 2,400円

中国人留学生と「国家」・「愛国」・「近代」

林麗婷 著 東方書店 4,500円

21世紀×アメリカ小説×翻訳演習

藤井光 著 研究社 2,200円

“世界の工場”への道

巖善平 他 著 京都大学学術出版会 5,200円

「奇」と「妙」の江戸文学事典

神谷勝広 他 著 文学通信 3,200円

ICT×日本語教育

長谷部陽一郎 他 著 ひつじ書房 3,000円

あなたと生きる発達心理学

興津真理子 他 著 ナカニシヤ出版 2,300円

ここから始める「憲法学習」の授業

奥野浩之 他 編著 ミネルヴァ書房 2,600円

施策に向けた総合的アプローチ

子どもの貧困／不利／困難を考えるⅢ

埋橋孝文 他 編著 ミネルヴァ書房 3,800円

中学校教師として生きる

中瀬浩一 大橋忠司 著 樹村房 1,500円

子どもの心の問題支援ガイド

石川信一 武藤崇 他 監訳 金剛出版 3,400円

プライマリー商法総則・商行為法 第4版

釜田薫子 他 著 法律文化社 2,400円

労働法概説 第4版

土田道夫 著 弘文堂 3,500円

国際法 第4版

新井京 他 著 東信堂 2,900円

京都発NPO最善戦

新川達郎 他 著 京都新聞出版センター 1,400円

ラウンド・アバウト

渡辺文 他 著 集広舎 1,800円

菌類の生物学

大園享司 他 訳 京都大学学術出版会 2,500円

デヴィ・テリブル、あるいは反時代的考察

庭田茂吉 著 萌書房 2,400円

弥生土器

若林邦彦 他 著 ニューサイエンス社 4,600円

新版 八尾市史 古代・中世史料編

山田徹 他 著 八尾市

王家の遺伝子

石浦章一 著 講談社 1,000円

ベーシック条約集 2019

坂元茂樹 他 編 東信堂 2,600円

越境する歴史家たちへ

山田史郎 柿本昭人 服部伸 他 著 ミネルヴァ書房 3,800円

中近世武家菩提寺の研究

山田徹 他 著 小笠子社 11,000円

事例から学ぶ

心理職としての援助要請の視点

石川信一 肥田乃梨子 他 著 金子書房 2,200円

リスク事典

津田博史 他 編著 丸善出版 22,000円

教養としてのヨーロッパ政治

鶴山洋子 他 著 ミネルヴァ書房 3,500円

テキスト経営人類学

藤本昌代 他 編著 東方出版 2,000円

判例国際法 第3版

坂元茂樹 他 編著 新井京 他 著 東信堂 3,900円

クィアと法

菅野優香 他 著 日本評論社 5,000円

平成史全記録

浜矩子 他 著 毎日新聞出版 3,200円

カズオ・イシグロに恋して

臼井雅美 著 英宝社 3,400円

緑紅叢書 復刻版 別冊 (解題・回想・総目次・付録)

小林丈広 他 解説 三人社 42,000円

ユーリカ民法1 民法入門・総則

大中有信 編 大中有信 他 著 法律文化社 2,900円

スタートダッシュ経済学

内藤徹 他 著 勁草書房 2,200円

知りたくなる韓国

浅羽祐樹 他 著 有斐閣 1,800円

心理学A to B 改訂版

箕浦有希久 他 著 培風館 1,970円

ことばとの対話

長谷部陽一郎 他 編著 山内信幸 菊田千春 玉井史絵 他 著 英宝社 3,200円

アルコールと酔っぱらいの地理学

二村太郎 他 訳 明石書店 2,700円

Shakespeare and the politics of nostalgia

塚田雄一 著 The Arden Shakespeare 15,675円

INTERVIEW

同志社人 訪問

磯島 奈津江さん
【政策学部2年次生】

宮坂 学さん
【1991年経済学部卒業】

東京都副知事

宮坂 学さんに聞く

ヤフー株式会社の社長としてスマートフォン時代の新生ヤフーを作り上げた後、
「Society 5.0」実現を目指す東京都の参与へ。
9月には副知事に就任した宮坂学さんにインタビューしました。

日本、そして気候変動への 危機感から東京都参与へ

磯島 東京都参与に選任された時の心境、意気込みを聞かせてください。

宮坂 6月にヤフーの取締役役を退任した時、様々なオファーをいただいたのですが、その中で今までとまったく異なるキャリアが東京都参与でした。迷った時はワイルドな方を選ぶというのが僕のモットー。できるだけ、まだ経験していないことをやりたいと思っています。年齢的に51歳で人生100年時代のいい区切りだし、思い切ってやってみようと思いました。参与を引き受けたのは、

もう2つ理由があります。1つは、日本の現状に対する危機感があったから。中国やアメリカへ行くと若者や女性が活躍していて、みんなが元気でイキイキしている。ダイナミズムがすごく、テクノロジーの使い方も非常に斬新です。翻って日本はどうでしょう。勢いがなく、このままで大丈夫かという憂いがありました。行政を担う東京都の仕事であれば、何かで貢献できるのではないかと考えました。そして、もう1つの理由が気候変動です。これは僕自身にとって最大の危機であり、解決しなくてはならない問題。東京都だけでなく人類的な課題ですね。小池百合子知

事はもともと環境問題に熱心な方なので、小池知事のもとであれば、この課題に取り組めると思ったのです。

磯島 気候変動への関心が高いのは、アウトドアが趣味で自然がお好きであることも関係していますか。

宮坂 それもありますね。気候変動については、若い世代の最大の問題だと思いますよ。海外でもスウェーデンの高校生が気候変動対策を訴えて注目を集めていますし、若者の方が敏感です。でも僕たちの世代が何もしなければ、「上の人たちは逃げ切った」と思われてしまう(笑)。きっちり決着をつけて次の世代に届けないと、目覚めが悪い気がするのです。

正しい方を選ぶうと考える
自分が選んだ道を正しくすればいい



今回の同志社人

宮坂 学 さん【1991年 経済学部 卒業】

みやさか・まなぶ 1967年生まれ、山口県出身。大学卒業後、株式会社ユー・ビー・ユーで雑誌や広告制作に携わる。1997年、創業2年目のヤフーに入社。2012年、44歳で同社社長に就任。「爆速経営」をスローガンに掲げ改革に取り組む。2018年会長に退き、2019年6月同社取締役を退任。同年7月東京都の参与に。9月20日付けで東京都副知事に就任。

東京都を、いつでも誰もがインターネットにつなげる街に

磯島 これから東京をどんな都市にしていきたいとお考えですか。

宮坂 まだ就任したばかりなので、今は目と耳を使って現場を知ること専念しているところです。現場を知らないと的外れになってしまいますから。参与として最初に手がけた仕事をあげると、「TOKYO Data Highway 基本戦略」の策定ですね。「東京をいつでも誰でもインターネットをつなぐことができる街にしよう」という構想です。今インターネットにつながらないのはすごく不便で、良くないことだと思う。行政はインフラをつくるのが一番の仕

事です。車の道はもう十分整備されているので、次にすべきことは「電波の道」をつくること。5Gネットワークで、どこでもインターネットがつながる道をつくることを目指しています。

磯島 今後、IT技術は私たちの暮らしにどのような変化をもたらすとお考えですか。

宮坂 すべて変わると思いますよ。

磯島 すべて！

宮坂 電気と同じですよ。電気はすべての産業や生活に関わっているでしょう。ITも同じようにすべての産業、生活、モノに関係してくる。電気がない生活が考えられないように、ITのない生活もあり得なくなると思います。

ビジネスは“打率よりも打席” スピーディな決断で打席を増やす

磯島 ヤフーの社長に就任された際に掲げた「爆速経営」について教えてください。

宮坂 「爆速経営」という言葉はメディアで取り上げられて話題になりましたが、実は社内ではあまり使ってなかったのです。それまでのヤフーは、外的要因から守り重視にならざるを得なくて、慎重すぎるところがありました。僕が社長になる時はちょうど転換期だったので、仕事のスタイルを一気に変えるために、わかりやすい言葉で「爆速」を掲げました。ただ、いつでも何でも爆速で進めればいいのかというわけではありません。タイミングや仕事の性質によっては慎重になった方がいい場合もあるので、柔軟に対応すべきだと思います。

磯島 慎重になる時、また逆に、早く決断すべき時はどういう場面でしょうか。

宮坂 人事的なこと、人に関する意思決定はものすごく慎重にした方がいい。絶対、爆速でやってはいけません。それ以外のことは、早く決めていいと思っています。仕事というのは、打率よりもヒット数を競うもの。たくさん結果を出した方がいいですよ。そのためには打席を増やした方が得です。打率が低くても、打席が多ければヒットをたくさん打てるでしょう。ゆっくりしていると打席は増えないから、早く意思決定をすることが大事になるのです。

磯島 素早く決断することで生じるリスクについてはどうお考えですか。

宮坂 確かにリスクはあります。でも、正しいことを選ぼうとしない方がいい。選んだことを正しくする方がいいと思



いますよ。どちらが正解かわからないし、間違ったことを選んでいる可能性もあります。だったら、自分が選んだ道が正しくなるように一生懸命やっていけば、結果オーライになるんじゃないかなと思っています。

良いアウトプットをするには 知的栄養を摂ることが大切

磯島 今後の社会に必要とされる人材についてはどうお考えですか。

宮坂 それは昔も今も変わらないと思います。どんなスキルを身に付けているかではなく、人としてちゃんとしているか、自分を信じて好きな道を貫くことができるかといったことの方が大切。新島襄先生の教えに通じることですよね。テクノロジーは確かに進化しているけれど、技術は道具に過ぎません。道具は使える方がいいけれど、例えば新島先生がスマートフォンを使いこなせたらもっとすごいことをしたかというところが変わらないはずです。

磯島 普遍的なことに注目した方がいいということでしょうか。

宮坂 そう思います。また、熱中する力や集中する力はベースに必要なと感じています。何かを究めようと思うと、内側のパッションやエネルギーが大事です。これまでたくさんのエンジニアを見てきましたが、優秀な人は熱中する力がすごい。40歳、50歳になってもずっと勉強しています。そういう人たちは強いですよ。

磯島 まず興味のあることを見つけることが大事かなと思いますが、そのためにできることは何でしょう。

宮坂 僕は学生時代に本を読む習慣を持てたことがすごく良かったと思っています。本は人の体験を気軽に追体験できるツールです。色々な本を読むことが、自分の好きなことを知る手がかりにもなるでしょう。興味が湧くことがあったら、著者に会いに行ってみる、そのテーマの講演会に足を運んでみる、本に書かれた場所に行ってみる…そんな広がり方もできる。本を読んで、人に会って、旅をすることは、ぜひやってほしいなと思います。

磯島 今の若者は本よりもスマート

フォンを見ている時間の方が多いと感じます。

宮坂 仕事でも学業でも、良いアウトプットをするためにはインプットが必要です。何を吸収したかによってアウトプットは変わるので、しっかりインプットして知的栄養を摂ることが大切。みんなと同じインプットをしてしまうと、同じアウトプットしか出てきません。だから、できるだけ人と違うインプットをした方がいいと思います。みんながスマートフォンでニュースを見ているなら本を読んだ方がいいし、みんなが本を10冊読んでいるなら100冊読む、みんなが本しか読まないのなら人に話を聞きに行ったり旅をしてみるという風に。それが、自分をユニークにしてくれます。ただ、自分をユニークにしたいからとユニークなインプットにするのは本末転倒ですよ。周りを気にせず、好きなことをインプットしておけば、ユニークに、自分らしくいられると思います。

磯島 好きなことを探求するのは、時間のある大学生のうちにやっておいた方がいいですね。

宮坂 大人になってもやった方がいいですね。若者に「好きなことをした方がいい」と言うなら、まずは自分がそういう姿を見せないと。大人も若者も子どもも、自由に好きなことができればみんな元気になると思うのです。仕事を始めると時間がなくなると考えがちですが、実は現代人は圧倒的に暇になっているのですよ。テクノロジーが

人間の労働をどんどん代替しているので、昔と比べて日本人の労働時間は激減しています。テクノロジーの力で自由に豊かな暮らしが実現し、時間を持てるようになっているはず。その時間をどう使うかは自分次第ですね。

「夢中は努力に勝る」 熱中できることを見つけよう

磯島 最後に、同志社大学の学生にメッセージをお願いします。

宮坂 自分が好きで、熱中できることをやってほしいと思います。流行る、稼げる、将来性があるって有望などといった理由でキャリアを決めるのではなく、勉強を続けなければ研究者の道に進めばいいだろうし、インターネットが好きだったらインターネットの仕事をすればいいのです。「夢中は努力に勝る」と言った経営者がいますが、本当にその通りだなと思います。好きで夢中になれることなら、勉強することは苦にならないでしょう。大きなことにも挑戦できるし、究めることもできる。夢中になれることがあるのは大きなアドバンテージです。そうはいつでも、一生夢中になれるものを若いうちから見つけられる人はめったにいません。今この瞬間とか、この先3年、5年くらい夢中になれることと考えれば、選びやすくなると思います。僕自身、目の前の好きなことを一生懸命やっていたら次につながっていき、今ここにいます。皆さんにもぜひ、夢中になれることを見つけてほしいと思います。

インタビューを終えて



インタビューー
磯島 奈津江 さん

【政策学部 2年次生】

大阪出身。政策学に興味があり、同志社大学に入学。政策の観点から様々な社会問題を解決する力を身に付けるべく、日々勉強に取り組む。1年次に松岡敬学長と佐藤優客員教授の対談本『いま大学で勉強すること』を読んで感銘を受け、新島塾に入塾。文理融合の知力の体得を目指す。

これまでに経験したことのない土俵だから東京都参与に挑戦したというエピソードが印象的でした。ご自身の体験に基づいたアドバイスは一つひとつが胸に響き、とても励みになりました。大学生はどうしても就職のことを考えてスキルや資格取得を重視しがちですが、普遍的なものが大切であることや、熱中できることを見つけることの大切さがよくわかりました。夢中になれるものを見つけて、勉強も含めてこれからの大学生活を充実させていこうと気持ちを新たにすることができました。



My Job,

私と「仕事」

はしもと まさと
橋本 将都さん
[2017年 スポーツ健康科学部卒業]
サコス株式会社 京都営業所

学生時代からの夢を追い続け、多彩な分野で活躍する卒業生

その姿が学生の皆さんの将来の

JOCの就職支援制度「アスナビ」で仕事と競技を両立 東京オリンピックのカヌースプリントで表彰台を目指す



日本代表合宿がない際は琵琶湖で練習を行っています。体育会カヌー部の後輩と共に質の高い練習ができています。



主担当は機械整備です。ショベルカーの洗車等をしています。

サコスは建設機械レンタルを業務としている会社です。現在、私は京都営業所で重機整備を担当しています。就職については特に所属したゼミの横山勝彦先生から熱意に満ちたご指導をいただき、自分で積極的に調べた結果、日本オリンピック委員会 (JOC) が2010年から展開している「アスナビ (トップアスリート就職支援ナビゲーション)」を知りました。この制度は国内外の第一線で活躍するアスリートが仕事と競技活動の両立を図れるように、支援企業とのマッチングを行い、雇用を支援する制度です。2017年6月に就職希望アスリートとして参加企業に向けたプレゼンテーションを試み、約1ヶ月後にサコスから採用の通知をいただきました。

また、サポートとしては同志社校友会からの支援も受けており、心から感謝しています。

カヌースプリントに出会ったのは高校入学時です。水面上の直線コースでタイムを争う競技で、両端にブレード (水かき) があるパドルで漕ぐカヤック部門と漕手が形状の細い艇に片膝をつけて片側だけにブレードがあるパドルで漕ぐカナディアン部門があります。「お前はカナディアン向きだ!」という先輩の助言に従い、練習に打ち込みました。当初はバランスを崩して水面に投げ出されましたが、次第にスピ

ードが出るようになり、パワフルで躍動感あふれるカナディアンに魅了されました。私の強みは瞬発力や筋力であり、スタートダッシュやペースアップによる攻めに徹したレースを得意としています。2016年の第52回全日本学生カヌースプリント選手権大会で男子個人C-1 1000m優勝、ペアC-2 1000m・C-2 200m優勝、さらに最優秀選手賞も受賞。同年の第7回世界学生カヌースプリント選手権男子個人C-1 500m5位、2019年カヌースプリント海外派遣選手最終選考会男子個人C-1 1000mでも1位を勝ち取ることができました。

入社後は東京オリンピックを目指す日本代表チームの一員として国内外の練習拠点で強化合宿を続けています。具体的な課題は外国人選手にスタートで競り負けず、1パドルの差を埋めることです。海外でも国内と同様の試合展開を行い、総合力でベストパフォーマンスを発揮できれば、勝機が見えてくると確信しています。

現在の環境はアスリートにとって新たな選択肢の一つだと思います。今は競技に集中し、お世話になっている方々のためにも際立つ実績を残したいと思います。後輩の皆さんも自身でやると決めたことを追求してほしいと思います。ご活躍を期待しています。

MyLife

第82回

を訪ね仕事に挑む熱い思い、今後の目標などをインタビュー。

キャリア・プランに役立てば幸いです。

もり なお み
森 直美さん
[2010年 政策学部卒業]
株式会社静岡朝日テレビ
報道制作局
アナウンス部



自分が深く感動したものが人の心に響く 入社時に熱望したスポーツ番組にも全力で挑んでいます

静岡朝日テレビに入社が決まったのは4年次の秋も深まった11月でした。それまで在京キー局をはじめ数多く採用試験に挑んだのですが、すべて不合格。一時はアナウンサーの仕事を断念し、内定を得ていた企業に就職するつもりでした。でも、やはり諦めきれない。夏真っ盛りの頃に挑戦を再開し、静岡で追加採用試験があるという情報を耳にしたのです。「これがラストチャンス!」と思い定めて臨んだ役員面接では、その頃熱烈に応援していたガンバ大阪への思いの丈を関西弁で語り尽くしました。大阪のサッカーチームについて熱く語る姿に戸惑われたと思います(笑)。でも、格好をつけずに、自分を出し切ることに徹したのが良かったのか、帰りの新幹線の中で内定の電話をもらいました。涙があふれて止まらなかったのを憶えています。

入社前に東京でANN (All-Nippon News Network) 系列の新人合同研修があり、発声など基本の特訓に明け暮れました。私の場合、特に注意されたのが標準語を正しいイントネーションで話すこと。以来、関西弁は封印し、必死で努力しました。入社当初は「自分にはキャラが無い!」ということにも悩みました。でも、「野球でも1番から9番まで全員に役割があるんだ」という父親の言葉で吹っ切れま

した。また、入社3年目の頃に上司からいただいたアドバイスも大きな支えになっています。それは「人は君の心が動いた時に感動するんだよ」という教えます。言葉による表現も大事だけど、それ以上に伝える私自身の「心」が大切であることに気づき、次第に自然体で自分らしく仕事に臨めるようになりました。

現在、担当しているのは情報ワイド番組「とびっきり!しずおか」(毎週月～金:16:45～)、同土曜版(毎週土:9:30～)、静岡を代表する長寿番組「スポーツパラダイス」(毎週金:23:10～)です。「とびっきり!しずおか」ではレポーターを経て、2年前からMCをしています。「スポーツパラダイス」は入社時から担当を熱望し、翌年に念願がかなったスポーツ番組です。番組ではサッカー王国・静岡のJリーグチームの最新情報をメインに、スポーツニュースやインタビュー、オリジナル企画を多彩に発信しています。今でも本番前には足が震えますが、静岡朝日テレビのアナウンサーとして静岡県を元気にしたいと思ってチャレンジしています。大学の4年間はあっという間です。たとえ失敗することがあっても、「やりたい!」と思ったことはすぐにやること、これが私から後輩の皆さんへのメッセージです。

One day on the job



10:30
出社・発声練習



14:00
メイク



15:00
MC打ち合わせ



16:00～
スタジオ入り
リハーサル
最終チェック



COVER INTERVIEW My Purpose 挑戦する人



第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会女子3000mに続き 第17回世界U20陸上競技選手権大会女子3000mでも優勝 父親から贈られた言葉「一志走伝」を深く胸に刻み 世界に挑み続けるトップアスリートを目指す

初めて陸上競技を体験したのは3歳の時だった。母親が参加した地元主催のロードレースにファミリー部門もあり、共に走るようになったのである。当初は後塵を拝していたが、次第に頭角を現し、メダルを競うようになると、競技者としての自覚も芽生え、小学校5年生の頃には積極的に練習に取り組むようになる。中学校の陸上部で本格的に走りを鍛え、2014年度全日本中学校陸上競技選手権女子1500mで優勝。駅伝の強豪校として名高い兵庫県立西脇工業高等学校では、全国都道府県対抗女子駅伝で兵庫の優勝に貢献し、第70回国民体育大会少年女子B1500mで優勝、第72回国民体育大会少年女子A3000mでも栄冠を手にした。

同志社大学に進学後は尼崎市を拠点とする「ND28AC(アスリートクラブ)」を経て、現在は「豊田自動織機 TC(トラッククラブ)」に所属している。選手個人の活動をサポートするために、新たに立ち上げられたクラブチームである。「このような形を採ったのはトラック競技を自由に転戦したかったからです。父親は元3000m障害の選手、母親は北海道マラソンで二度優勝したアスリートですが、共に自主練習で能力を高めるという独自の道を歩んできました。この気質を私も受け継いでいるように感じています」。いま、田中さんが特に重視しているのは「人と異なる道を行くのであれば、そこで必ず結果を出す覚悟が必要」という父親の教えである。昨年は第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会女子3000m優勝、第17回世界U20陸上競

技選手権大会女子3000m優勝という圧倒的な成績を残した。今年も初めて挑戦した第102回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走シニア女子8kmで優勝し、第103回日本陸上競技選手権大会で女子1500m2位、5000m4位の好成績をあげている。

「最近、気づいたのは『無心で走る』ことの大切さです。他の選手を意識せず、新記録だけを狙って直向きに走った時には好結果が出せるのに、レース展開を考え過ぎると惜敗するケースが多いからです。雑念を捨て、自分の走りに集中したいと思っています」。大学入学時から練習拠点のある尼崎市で一人暮らしを始めた。時間割によっては午前5時に起床し、10～12kmの朝練後に朝食をとり、大学に向かう。授業を終えた後は京田辺校地の陸上競技場で再び練習に励む。2年次からはレポート提出にも追われ、日曜日に仕上げるという状況が続いている。「かなりタイトな日々ですが、スポーツ健康科学部は学科別に細分化されておらず、広く学べるのが良いですね。例えば、心理学にも関心を抱くようになりました。レース前の『理想的な緊張の保持の仕方』を学び、役立てたいと思っています」。小学生の頃から童話や児童文学が大好きで、『大きな森の小さな家』、『だれも知らない小さな国』などが心を癒してくれると微笑む。父親から贈られた言葉「一志走伝」を胸に刻み、日本のトップに立ち、世界で活躍することによって「陸上界に影響を与えられる人」になりたいと願っている。



たなか のぞみ
田中 希実さん

【スポーツ健康科学部 2年次生】